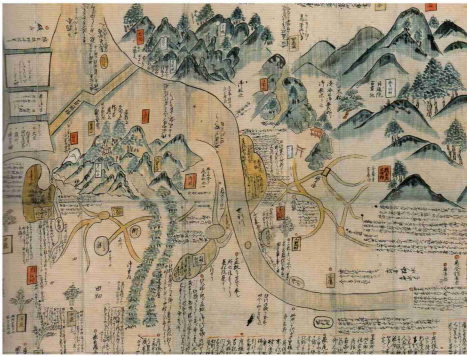


江戸の町割りを残す町 彦根



▲昔の彦根の地理を彦根古図を用いて説明される早川さん



▲「彦根古図」新修彦根市史第10巻より引用

5月26日に彦根城博物館で「彦根の歴史と彦根城について」と題して第一回図書館ゼミが開催された。彦根城博物館学芸員の早川駿治さんがさまざまな歴史的資料や写真を用いて彦根の町と彦根城の昔の姿を説明された。

早川さんは彦根城が築城される以前の彦根の様子を「現在、彦根城のある彦根山の北側を芹川が流れており、今はない松原内湖に流れ込んでいた。彦根には平安時代から彦根寺というお寺があり、ここ



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

彦根に残る城下町

彦根は彦根城とともにできた比較的新しい城下町であり、現在でも町のあちこちに江戸の城下町の面影を見ることが出来る。

左の写真は道と道を意図的にずらし、敵の進軍速度を低下させる「くいちがひ」。

写真では5間（約9・1M）



分道同士がずれている。

右の写真は角を曲がった後の道を行き止まりにして、敵を迷わせることで同じく進軍速度を低下させる「どんつき」。入り組んだ町中では効果的な防衛設備である。

は白河上皇も参詣されたことのある由緒あるお寺だ」と彦根古図を用いて解説された。井伊家が彦根を統治するまでの彦根を「室町時代は六角氏の支配地、戦国時代は浅井氏の支配地だった。その後、織田信長が松原内湖を湖上水運の拠点として活用し、石田光成が統治した」とまとめられ「井伊家が彦根に封じられたのは彦根が交通の要所であり、豊臣家が中山道伝いに攻めて

きたときに彦根で食い止めるためだった。だから当初彦根城は天下普請として全国大名を動員し、既存の城の資材を流用して築城されていた。しかし大坂の陣で豊臣家が滅亡してからは井伊家単独で築城された」と明かされた。

最後に早川さんは彦根の魅力について「昔の建物や町割りの名残が残っていて、江戸の姿を現代に伝えているところだ」と述べられた。